

# 工業部会通信

(発行) かながわ経済新聞合同会社  
 〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3  
 商工会館本館1階  
 ※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞  
 KANA KEI

## KIZUNA鈴木委員長に聞く 今後の活動内容は?

KIZUNAプロジェクトは、地元企業とのネットワークづくりのための交流事業や広報活動、社会奉仕活動などを担当する。しかし、昨年からコロナ禍の影響で、「リアル」な交流ができず、新たな方向性を模索している。先行き不透明な中で、同プロジェクトを率いる鈴木道雄委員長（永進テクノ社長）はどんなビジョンを描くのか。また、現在のコロナ禍や先行きをどう見ているのか聞いてみた。

## SNSで企業情報を発信 コロナ後にらみ連携準備

《昨年は我慢の1年で、しかも、これほど長期化していたコロナ禍ですが、ワクチン接種が進んでいることで、感染拡大が始まり、これから先の見通しが読めない中で、交流などのイベントをどう実行していくのか。感染症対策を十分にしながらやっていくか。いろいろと考えています。》

《活動が本格的に再開したら、何に力を入れていきますか》

「まずは今まで工業部の活動に参加したことのない会員企業に対して、参加を働きかけていきたいと思います。また、SNSで企業情報を発信する準備を…」

## 自動車が変わる近未来 ホンダ技術者語る

近未来技術研究会（吉田英訓会長）は6月23日、第1回例会をオンラインにて開催した。本田技術研究所エグゼクティブチーフエンジニア先進パワーユニット・エネルギー研究所兼ライフルリーションセンターエネルギー商品統括の岩田和之氏が講演。「100年に1度の大変革！ 自動車の進化が変わる近未来」をテーマに語った。

### 近未来第1回例会

会員47名が参加した。岩田氏からは、電動化推進における「CASE」の概念や、IT・コネクテッド技術を活用し、再生可能エネルギーから移動と暮らしをシームレスにつなぎ、真の環境貢献を目指す「Honda eMaas」のコンセプトなど、Hondaが見据える自動車の近未来について話があった。



講演の様子

「今も先行き不透明感が残っており、コロナ終息も見えませんが、息もつかせません。そのため、今後直接会って対面による交流ができないことを想定しています。SNSでしたら、会わなくても互いの情報発信ができ、理解できるきっかけづくりにもなります。そこから本場の交流、やがては仕事連携につながります。」



「展示会に出展する」

《これから先、中小企業に求められるものは何でしょうか》

「連携がより重要になってくると思います。不得意分があっても1社単独では受けられない仕事でも、さまざまな企業、業種と組めばできる可能性が広がります。受注する企業は、もともとお客様との信頼関係がありますので、他社を巻き込めば相乗効果にもなります。そのため、経営者は商工会議所など、さまざまな経済団体に参加し、ネットワークを築いていくことも大切になると考えています。連携事例が増えれば、地域産業のポテンシャルは高まると思います。」

## 1次採択率は36%に 再構築補助金の採択結果

新型コロナウイルスの影響で売り上げが減少した中小企業の業態転換や新分野への展開を支援する国の事業再構築補助金（通常枠・卒業枠・グロバルV字回復枠）の第1次採択結果が発表され、全国2万231件の応募件数のうち、8016件（採択率36%）という結果になった。すでに2次公募は締め切っているが、今年度はさらに3回程度公募する予定だ。

採択企業の業種分類では、「製造業」が最多。「飲食・宿泊業」「卸・小売業」も多かった。計画内容の傾向としては、製造業では設備投資、飲食業ではデリバリー化、セントラルキッチン設備の新設など目立ったという。（かながわ経済新聞）



さあ、5年後の未来を見に行こう。

## 新規会員募集中 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会